

令和6年度（2024年度）学校評価

天草市立本渡看護専門学校
令和7年3月

1 学校の教育目標

- 1 心豊かで円満な人間性を養うことができる。
- 2 生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を養うことができる。
- 3 対象である人間を総合的にとらえ、看護上の問題が解決できる能力を養うことができる。
- 4 保健医療チームの一員として、看護職の果たす役割と責任を自覚する。
- 5 専門職として常に問題意識を持ちつつ、生涯を通して学習に努め、看護を探究する姿勢を養うことができる。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

令和6年度目標 コミュニティ・ナーシングスクール（地域と共にある学校づくり）～つながる～
○ボランティア活動を広げて地域とのつながりを強化する。
ODOORに参加してアートに触れ、対象の人間性やQOLに関わる専門職の土台作りとする。
これらを通して、学校・地域・社会とのつながりが展開できるように連携強化に取り組んでいきたい。
◎目標
Ⅰ 卒業生の市内医療機関等への就職率向上（令和6年度目標50%以上を維持）
Ⅱ 国家試験合格率（100%）

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

適切…4、ほぼ適切…3
やや不適切…2、不適切…1

評価項目	自己評価
・学校の理念、目的、育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3.7
・学校における職業教育の特色は何か	3.8
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.7
・学校の理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	3.4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけら れているか	3.8

取組みの概要及び今後の課題
学校の理念、目的、育成人物像等については学生便覧を用いて随時学生に説明し、周知してい る。保護者に対しては、入学前説明会、戴帽式の保護者会にて説明を行っている。 また、学生に対して、教育目標の達成度をループリック評価を用いて確認している。

(2) 学校運営

評価項目	自己評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.8
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.8
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	3.9
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.8
・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.8
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.8
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.7
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.3

取組みの概要及び今後の課題
今年度、学籍管理システムを導入したが、これまでの様式や管理方法と合致せず、業務の効率化 に至っていない。引き続き業者と検討していく。 学籍管理システム運用のマニュアルを整備し、業務の効率化を図っていきたい。

(3) 教育活動

評 価 項 目	自己 評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	3.8
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.7
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.8
・キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3.8
・関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか	3.8
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、学習等）が体系的に位置づけられているか	3.7
・授業評価の実施、評価体制はあるか	3.9
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.7
・成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	3.8
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.8
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.6
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3.4
・関連分野における先端的な知識、技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.6
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.3

取組みの概要及び今後の課題
新カリキュラムでの教育になり3年経過した。改正内容の1つである臨床判断能力の育成に向けて、指導者会議で講師を招き、臨床実習指導者にも理解をいただくなどの取り組みを行った。また、多職種連携ハイブリッドシミュレーターシナリオを購入したことにより、実際の臨床場面を想定した演習を行うことが期待できる。シミュレーターを効果的に使えるよう、教員の研修も必要であると考え。今後、カリキュラムの成果を確認して課題を明確にしていく必要がある。 今年度、教員が少なく、学年研修の実施や授業研究などの余裕がなかった。教育力の向上を目指し、取り組む必要がある。

(4) 学修成果

評 価 項 目	自己評価
・就職率の向上が図られているか	3.9
・資格取得率の向上が図られているか	3.8
・退学率の低減が図られているか	3.6
・卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.4

取組みの概要及び今後の課題
就職率は100%であり、市内就職率は73.0%だった。休学者1名、退学者2名であり、休学者は復学予定である。R5年度調査による専門学校生の中途退学の主な理由である学校生活不適應・修学意欲の低下が多い。本校の退学者の理由はいずれも該当しない。今後も面接や相談などの学生支援を行っていきたい。 同窓会とも協力し、卒業生の就業状況や資格取得状況などを把握し、本校の選択する魅力の発信につなげたい。

(5) 学生支援

評 価 項 目	自己評価
・進路、就職に関する支援体制は整備されているか	3.7
・学生相談に関する体制は整備されているか	3.8
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.8
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.8
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.7
・学生の生活環境への支援は行われているか	3.6
・保護者と適切に連携しているか	3.3
・卒業生への支援体制はあるか	3.4
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.7
・高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	3.7

取組みの概要及び今後の課題
学生個々に面談を適宜実施した。生活環境等は学生個々で異なるため、面談時に確認し、経済状況などに応じて授業料の減免等の紹介や、生活相談に対応した。 今後、学年担任だけでなく学内カウンセラーと、より連携して学生と関わっていききたい。 市内への就職率が70.3%と今年度は過去最高の就職率となった。近年、早い時期に就職を決定する傾向にあり、今年度は、2年次に就職・進学ガイダンスを市内に就職した卒業生から就職に関する話を聞く機会を設けた。終了後の意見では、市内に就職することも考えたいとする意見が複数聞かれた。 礼節などのマナー、小論文対策として、業者セミナーなどの活用も検討していく必要がある。

(6) 教育環境

評 価 項 目	自己評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.7
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.6
・防災に対する体制は整備されているか	3.7

取組みの概要及び今後の課題
今年度は、多職種連携ハイブリッドシミュレーターシナリオを購入した。また、学生ホールの改修、Wi-Fi環境の整備を行い、学生の学習環境の整備に務めた。 危機管理については、実習におけるアクシデントやインシデントが発生した場合は、その日のうちにまずは聞き取りを行い、迅速な対応を心がけた。再発を防止するために、実習で発生したアクシデントやインシデントは学生間でも共有をできるように、情報提供と対応策を考える時間を設けた。 自然災害に対しては、台風や積雪などの際には、事前に対応を話し合い、学生の安全確保に心がけている。

(7) 学生の受入れ募集

評 価 項 目	自己評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	3.9
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.8
・学納金は妥当なものとなっているか	3.9

取組みの概要及び今後の課題
令和6年度入学者は35名で、全国の看護専門学校における入学者の充足率（82%で計算すると32.8人）から考えると多かったが、令和7年度の入学予定者は20名と定員の半分となった。他校の充足率の確認を行うとともに、入学者の獲得に向けて新たな取り組みが必要である。天草市外からの入学者を獲得していくための方策が必要である。 今後も、中学・高校の進路ガイダンス、業者による説明会などに参加し、学校の魅力、看護の魅力をPRしていきたい。

評 価 項 目	自己評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.8
・予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.8
・財務について会計監査が適正に行われているか	4.0
・財務情報公開の体制整備はできているか	4.0

取組みの概要及び今後の課題
市の定期監査を受けている。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	自己評価
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.9
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとれているか	3.9
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.8
・ 自己評価結果を公開しているか	3.9

取組みの概要及び今後の課題
9月法令、専修学校設置基準等の遵守のために看護師養成所自己点検表に基づいて点検評価を行った。年度末には専修学校における学校評価ガイドラインをもとに自己評価を実施し、評価結果はホームページと運営会議にて公表している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	自己評価
・ 字校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	3.8
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.9
・ 地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3.8

取組みの概要及び今後の課題
職員・学生ともにボランティア活動には積極的に参加している。 地域の各施設、団体からボランティアの依頼があれば随時学生に周知し、活動を奨励している。地域で行われる行事や災害訓練などにも参加しており、今後も継続していく。

令和6年度目標 コミュニティ・ナースングスクール（地域と共にある学校づくり）～つながる～ ○ボランティア活動を広げて地域とのつながりを強化する。 年間13回の延べ人数74人の学生がボランティアとして活動を行った。その他にも、自治会でハイヤ祭りに参加したり、地域で実施されるミニバレーボール大会に参加するなど、学生も積極的に地域とつながる活動が行えた。 また、職員も救護ボランティアを始めボランティア活動を行った。今年は、地区社協の要請で災害研修への協力も行った。今後も、地域に貢献できるよう、活動していきたい。 ODOORに参加してアートに触れ、対象の人間性やQOLに関わる専門職の土台作りとする。 講義受講ノートや今年度末実施したアンケートによると「これまで全く知らなかった人の多様な考え方を知れた。」「看護師になった場合に話を聞いた内容や考え方を取り入れたいと思うようになった。」などの感想があり、看護の知識だけにとらわれない、多様な価値観と人を尊重する姿勢を学んでいる。 ◎目標 Ⅰ 卒業生の市内医療機関等への就職率向上（令和6年度目標50%以上を維持） 今年度は、市内医療機関への就職は、73%で目標を達成した。市の修学資金の利用している学生が多かったこと、先輩からの勧めなどの要因も大きい。 Ⅱ 国家試験合格率（100%） 令和6年度、看護師国家試験の合格者は36/37名（97.3%）であった。 1年次、2年次と学習を積み重ね、3年次は、学内日は8:00登校とし、必修対策を行った。また、担任を中心としながらも個別支援を行うため、各担当教員をつけて支援を行った。
